

野尻秀之教授の退職記念号に寄せて

熊本学園大学 商学部長 吉 村 純 一

この度、野尻秀之先生の退職記念の商学論集が発行されますことを大変嬉しく思います。野尻先生は、1982年に商学部講師として本学に赴任され、翌年には教授に昇格され、2014年のご退職にいたるまで32年間に渡り教育・研究にご尽力いただきました。この間に大学院経営学研究科長などの役職を歴任され2014年に名誉教授になっておられます。

私は、1996年にこの大学に移ってきました。当時すでに野尻先生は商学部の大先輩の教員であり、はじめてお話をさせていただいた時も緊張したのを覚えています。いくつかの点で、野尻先生は私にとって先輩教員とはいえ身近に感じることができた存在でした。まず、なにより研究室が隣でした。講義へ出かけたりあるいは逆に帰ってきたりする際に、廊下やエレベーターで一緒する機会が多くありました。必ず声をかけていただいて研究や教育の話しに付き合ってくださいました。先輩教員として気遣っていただくことが多く嬉しかったことを思い出します。また学生に教育する内容が近接していました。野尻先生は、経営科学やシステム科学を専門とされていて学部では意思決定論などの講義をご担当なさっていたので、マーケティング論を専門とする私とは必ずしも研究領域が重なっていたわけではありませんでしたが、いつも学生に教えたり論文を書かせたりする題材としてのマーケティングに関心をお持ちで、話しをする機会も多くありました。研究室に訪ねてこられて長時間議論させていただいたこともありました。

先生との会話の中で、しばしば研究時間のことが出てきました。いつも私たち後輩研究者の研究に費やすことができる時間について心配して下さっていました。先生の業績を振り返ってみると、実に多くの論文を世に問われ、しかもその大半が英文による論文であることに感服せざるを得ません。2つの学会で学会貢献賞を受賞されたり、多くの学会で論文審査委員をご担当されるなど学会における貢献も大変大きなものでありました。ともすれば、学務にかまけて研究がおろそかになりがちなわれわれのことをつねに心配されていたのではないかと思います。

すでに私の研究室の隣には、ご退職された野尻先生に代わって若い研究者が入室しています。私も野尻先生から身をもって教えていただいたように、研究棟5階研究者コミュニティの一員として若い先生とコミュニケーションがとれるよう努力していきたいと思います。最後に、野尻先生の今後益々のご健康とご活躍をお祈りしますとともに、先生にはわれわれの大切な商学部の将来について見守っていただきますようお願い申し上げます。